

飛騨市長  
都竹 淳也

新年明けましておめでとうございます。日頃より市政にお寄せいただいておりますご支援とご協力に対し、心から感謝を申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染拡大の波が繰り返し押し寄せ、全国的に感染者が増加し、飛騨市においても、市民生活や地域経済に多大な影響を与え、その対応に明け暮れた一年でした。

その中で、市では、感染防止と社会経済活動の維持、困難に直面されている方々の支援を図ることを目的に、切れ目なく、様々な緊急対策を実施してまいりました。特に、市内複数の医療機関における迅速PCR検査機器の導入や抗原定性検査を活用した「まちなか簡易検査センター」の設置など、県内でも他にない検査体制の整備を行いつつ、プレミアム食タクチケットの販売や飛騨市まるごと大売り出しの開催などの経済対策、市民生活の支援では返済免除付き生活支援資金貸付などにも取り組んでまいりました。

最重要課題であったワクチン接種も、市民の皆様のご理解とご協力により、大きな混乱もなく早期に進めることができました。

こうしたコロナ対策の一方で、昨年は、多機能型障がい者支援センターの竣工や市道釜崎～朝浦線の開通、上町農産物直売施設の着工など、暮らしの安心や地域

の活力創出につながる事業を着実に進めてまいりました。また、ハイパーカミオカンデの着工など、将来に夢の持てるチャンスも広がってきました。ふるさと納税も堅調に推移し、市特産品等も大変多くご利用いただいております。飛騨市に深く関わってくださる「関係人口」と呼ばれる方々も大きく増え、特に、そのマッチングを行う関係案内所「ヒダスケ!」の取り組みは過疎地域における全国モデルとして、先日、「グッドデザイン賞」と「第9回グッドライフアワード環境大臣賞自治体部門賞」を受賞いたしました。

本年は、アフターコロナを見据え、全国的に動きだす人流の取り込みによる地域経済の復活、そして、地域活動の着実な実行と新たな地域資源の掘り起こし等による市民の前向きな空気感の復活をテーマとして、『元気であんな誇りの持てるふるさと飛騨市』の実現に向けた事業を進めてまいります。

一つ目に、これまで止まっていた観光・地域振興施策を着実に実行するとともに、コロナ禍の知見を活かした『積極的な地域振興』を推進します。

例えば、飛騨古川まつり会館を核としたキャンペーンや様々な飛騨の食材をテーマにしたイベントの開催、今年度から検討を始めた神岡町鉱山資料館のリニューアルに向けた準備、今年完成予定の農産物直売施設やふるさと納税の活用

による農産物の販売促進、市産品の首都圏での販路拡大などに取り組み、市内小規模企業等の支援では、中途採用者の採用促進や事業承継の支援などに取り組みたいと考えております。

二つ目は、今年はこれまで大きな政策として取り組めていなかった環境や景観など『未来に遺す地域資源の保全』に本格着手します。深洞湿原や天蓋山、白木峰などの自然資源の保護・活用の検討と人材の育成、飛騨古川の街並み景観の保全に向けた体制づくり、民間事業者と連携した再生可能エネルギーの活用検討を進め、市民の皆様の誇りへ繋げていきたいと考えています。

三つ目に、これまで取り組んできた弱い立場の方々の支援など、市の『特色ある政策の深化』をテーマに、ひとり親家庭等の更なる生活支援や、空家や集落有施設の解体等の支援、重度障がい者の医療支援、スマート農業の強化、子ども達のスポーツ環境の整備などを進めていきたいと考えております。

「コロナと共に生きる生活」は今後も続きますが、明るく前向きな市政を進め、コロナ禍を乗り越えて暮らしの安心とまちの活力を生み出せるよう努力する所存です。新しい年が皆様にとって幸多き年となりますことを心よりご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

飛騨市議会議長  
澤史朗

明けましておめでとうございます。輝かしい新春をご家族お揃いでお迎えることと、心からお慶び申し上げます。

年頭にあたり、市議会を代表し新年のごあいさつを申し上げます。

市民の皆様には、日頃から議会運営や議会活動に対し、温かいご支援ご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

昨年は、国内はもとより世界中が新型コロナウイルス感染症と闘った一年であり、飛騨市の伝統文化である古川祭・神岡祭が2年連続で神事のみでの催行となりました。

また、市や各種団体が主催する行事、地域における自治活動におきましても、延期や中止が余儀なくされ、市内全体で活気が失われた状況にあったかと思えます。

このような状況の中、飛騨市議会としても、昨年11月10日に開かれまして、全国市議会議長会において、ワクチン接種の更なる推進とワクチン接種をしないことによる差別が起きない環境づくりを、国を挙げて取り組んでいただきたいということを要望してまいったところでございます。

新型コロナウイルス感染症の収束を目指した国内の動きは、国産ワクチンや治療薬の開発が進められております。また、3回目のワクチン接種についても順次進められている状況にあります。どれだけ

でも早く環境が整い、再び安心して生活できる日常に戻ることを切に願っております。

そのようなコロナ禍の一年ではありましたが、市民の声を傾聴する活動としては、広報広聴委員会が中心となり、意見交換会を市内20会場で行いました。地域の実態にあった制度への見直しや施策を望む声を基に、常任委員会等での所管事務調査や一般質問で取り上げさせていただき市政への反映を進めてまいりました。

また、議員定数等特別委員会では、前回の選挙において定数割れの13人という状況となったことに対し、年代別に無作為に抽出した2千人を対象とした市民アンケート調査を実施しました。飛騨市にとって相応しい定数や報酬に対するご意見、議会活動の見直しや議会への期待することなど、貴重な声を頂くことができました。

この集計結果につきましては、今月中に取りまとめ、議会だよりやホームページにおいて公表させていただく予定です。

今後は、頂いた意見を参考にさせていただきながら、市民から信頼される議会運営を目指し、具体的な改善策をつくり上げてまいりたいと思います。

議会としましても、住みよいまち「飛騨市」を目指し、市民の多様な意見に耳を傾けながら、市政の適正な監視を続け

るとともに、不断のない議会活動を進めます。

結びに、市民の皆様にとりまして、本年が大きく飛躍する年となり、明るい一年となりますよう、議員一同、心よりご祈念申し上げます、新年のごあいさつといたします。